

令和5年度 第1回 麻績村総合教育会議 議事録

1. 日時 令和5年5月2日(火) 午前9時30分から午前10時40分

2. 場所 麻績村地域交流センター第3・4研修室

3. 出席者

(構成員)

麻績村長	塚原 勝幸
教育委員会	
教育長	加瀬 浩明
教育長職務代理者	小山 正文
委員	宮下 温子
委員	小松 小百合
委員	高野 羊子

(構成員以外の出席者)

麻績保育園長	塚原 京子
麻績小学校長	伊藤 尊夫
筑北中学校長	臼井 伸明
事務局職員	3名
傍聴者	0名

(会議開会 午前9時30分)

1. 開会

○加瀬教育長

皆さんおはようございます。令和5年度第1回麻績村総合教育会議を開催します。どうぞよろしく申し上げます。

2. あいさつ

○塚原村長

田植えの時期となり、大地が生き返りまた躍動する時期となりました。皆様方におかれまして何かとお忙しい中、今日は教育会議へご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆さんにおかれましては、常日頃子どもたちの教育、またそれぞれの立場でご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。ありがとうございます。新型コロナウイルスにつきましても、この3月13日からマスクについては個人の意思に任せるというようなことになりました。またこの連休明けからは、インフルエンザ並の5類ということで、今後軽減

されるというような形の中で、学校等のいろいろな行事、あるいは学習のカリキュラムにおいても元に戻るのではないかと、活気が出てくるのではないかと期待をしているところです。しかしながら、コロナウィルスがなくなるわけではございません。またインフルエンザ並といっても学校サイドにおいては注意をする中で、取り組んでいただければありがたいと思います。

さて、それぞれ保育園においては新乳児あるいは入園児。また学校においては新入生等々今年もスタートをきったことと思います。学校の空調整備等については、ほぼ終わりました。それぞれ快適な中で学習ができるのではないかと思います。また GIGA スクール等々の ICT の整備につきましても、整備の完了をさせていただく中では子供たちの学力向上に期待をするところです。そして、令和 5 年度につきましても、いろいろと学校からご要望が出ている事項については、教育活動の充実に向けて、また整備等できればと思っているところです。第 7 次進行計画のダイジェスト版をお配りしました。皆様からいただいた色々なご意見を要約し載せさせていただいています。学校サイドとの今後ご協議いただく大綱等々とも整合性を保つ中で学校教育を進めていただければありがたいと思います。また、こういったコロナ禍によりまして、今までできなかったことが今後できてくるようになってきます。特に社会教育でやっているおみっこ元気クラブ等についてもキャンプとか通学合宿とか元へ戻しつつ、今後活動が活発化していけるよう、教育委員会でも計画を進めています。今後についてもよろしく願いできればと思います。いずれにしましても村の将来を担う子供たちです。いつも言っているように心豊かにたくましく明るくのびのびとそして、強い精神力を養っていただくというのは一番重要ではないかと思っているところです。子供たちのやる気の部分を起こしていただくことについては、これは行政も学校も同じだと思います。行政で言えば職員、学校であれば先生方にやる気を持ちがなければ、なかなか村民もついてこない子供たちもついてこないということなので、どうか子供たちにやる気を植え付けるためにも先生方、また行政もそうですが、「やるんだ」という気持ちを持っていただいて、保育園小中学校において基礎的な土台をしっかりと築いていただければありがたいと思うところです。

この第 7 次計画におきましては、村づくりということで今後 10 年間の計画を立ててあります。今は 1 年 2 年先が見えないという状況で、果たして 10 年後 20 年後このような形になるのかわからないわけです。それと同時に今、少子高齢化で大変人口が減少しており、それから子供たちも大変少なくなっているという中におきましても、これからは本当に小さい学校なら小さい学校なりに、個の教育をしっかりさせていただいて、一人ひとりの学力の向上に向けて、取り組んでいただければありがたいところです。いずれにしましても、社会情勢は日々どんどん変わりつつあるということと、子育て教育は国においても一番に掲げて、これからいろいろな施策が出てくるとおられます。村においてもそういった施策には率先的に取り組んで保護者の皆さん方の負担軽減に向けて邁進していければと思っているところです。

いずれにしましても園長先生、また小中学校の校長先生方と諸先生方には、いろんな面で子供たちの育成に努めていただきます。また教育委員の皆様方におかれましては、それ

をフォローするべく、多方面でご健闘いただければありがたいと思っています。将来の麻績村を支える子供たち、しっかりと教育していきたいと思っておりますので皆様方の更なるお力添え、ご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。本日はよろしくお願ひいたします。

3. 協議内容

① 麻績村教育大綱について

- ・第7次麻績村振興計画(該当項目＝第2節)との関連
- ・教育大綱は総合教育会議において毎年見直し、必要であれば改定が可能

○加瀬教育長

本日の協議内容ですが、先ほど村長から話がありました通り、麻績村の第7次振興計画がいよいよこの4月1日からスタートをしております。振興計画自体は村の最上位計画ですので今までもそれに合わせて教育委員会の具体的な施策が成り立っているという状況です。振興計画が出来上がりましたので、それに合わせて教育大綱という形で教育委員会の施策の柱を決定しなければいけないということです。本日は麻績村教育大綱についてということが議題ということになりますのでよろしくお願ひいたします。それでは教育委員会で準備をしました教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱これが正式名称であります。これを略して教育大綱という言い方になります。地方教育行政の組織および運営に関する法律というのがあります。その第1条の3に、教育大綱を定めなければいけないという法律があります。それに合わせて地方公共団体の長は大綱を定め、またはこれを変更しようとするときは、あらかじめ次条第1項の総合教育会議において協議するものとする。ということですので教育大綱は総合教育会議で決定をしていくことになります。ということで麻績村の教育大綱につきましても、この振興計画に合わせて新たな形で実施をするということになります。現教育大綱自体は令和3年3月に定められている一部改定という形でありますけれども、これは学校組合と解消して、麻績村独自でやっていくという形になったところのものでありますので、そここのところ改訂をされたものであります。今お話しした通り、第7次振興計画に合わせて、こここのところ大綱自体も改訂するというところを考えているところであります。麻績村の教育大綱でありますけれども実際に現在スタートしております本日のダイジェスト版が出ておりますが、第7次振興計画のところのページで言いますと6ページの①の子育て支援それからページをめくっていただいて8ページ、9ページの第2節の部分で学校教育から生涯スポーツまで、この5項目と先ほど申し上げたその前のページの子育て支援の計6項目が現状の教育大綱から教育委員会が対応している部分になります。ただ子育てのところに関しては教育委員会だけではなくていくつかのところ関わっている部分もあります。現状のところ関わっている部分を挙げるとすると子育て部分も含まれるということになります。そこで今教育大綱として考えていることに関しては、新たな教育大綱としてここに出てきているそれぞれの振興計画の文言がきちっと整理をされていて、今まで出されているものと同じ状況であり、この中に出てくる文言を教育大綱用にまた新たな文言に変えてということをするので

校教育で村の基本計画に出ているものと教育大綱のものが違う文言で出ているというのは、逆に同じものが二つ出ているだけのことになりますので、教育委員会内で検討をし、振興計画自体の該当部分を教育大綱としてそのまま代えるという形がよいのではないかなと考えています。これは現長野県教育委員会の方も県の総合5ヶ年計画が出ていますが、それに合わせて教育分野の計画を教育大綱とするということで今年の1月から県も同じ形でスタートしておりますので、それぞれ村の振興計画の教育部分に当たる先ほど申し上げた項目のところをそのまま教育大綱に変えるということを提案します。具体的にこちらのパンフレットを見ていただいて、実際にはもう少し細かい振興計画があってそれぞれ学校教育から生涯スポーツのところまでの部分それから子育ての部分に関しましても、これを持って当てるという形がすっきりするのではないかなということです。委員の皆様の方から少しご意見をいただいたり、あるいは少し変えた方がいいとか、こういったところも足した方が良かったりなどお考えがあればお聞かせをいただいて、教育大綱に盛り込んでいければと考えています。振興計画と併せて見ていただきながら、何かご意見等ありましたらお出しいただければと思います。よろしく願いいたします。

資料の第7次麻績村振興計画の該当項目に教育に関わる部分の全文を載せてあります。1番から5番までの学校教育から生涯スポーツのところまでそれぞれ計画がある内容のところに関しては訳してあります。それにあわせて、先ほど出てきている子育ての部分のところはまだ村の組織的に教育委員会と他の部分が絡んでいる部分もありますので、現状のところはその子育て支援のところも入れながら教育大綱自体は毎年見直していくことができますので、今後の動きに沿ってどうしていくかということもできるかなと思っています。いかがでしょうか。よろしいですか。

○職務代理

振興計画に基づいていろいろ動いていきますから、その中の教育はその一環ということであれば振興計画と教育大綱は同じ方向でなければおかしな話になりますのでよろしいと思います。

○加瀬教育長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。現状のところ、先ほど申し上げた通り、子育て支援のところも今の段階では大綱の中に含めておくというような形で進め、教育大綱という形で整理をして、1枚のものにしていきますが、その方向でよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは教育大綱としまして、子育て支援のところも含め、学校教育、生涯学習、青少年キャリア教育、文化歴史そして生涯スポーツ、合わせて6項目になります。これを教育大綱という形にしていきたいと思います。

地域で育て、未来に希望が持てる村づくり保育園、小学校、中学校へ切れ目のない一貫教育を充実させ、1人1人の個性を尊重し、生きる力や自立する力を育てる教育の充実を図ります。また、村の歴史、芸術、文化、スポーツ活動に触れる機会を提供し、豊かな生活ができる村づくりを進めます。ということになります。

これが一応令和5年から令和9年の振興計画に合わせてまず4年間という形で、ただ内容に関して見直しが必要な部分のところが出てきた場合は改定をすることが可能ということで、進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。それではそのような形で議会にも説明をさせていただいて、承認をいただいてということになりますが一応遡って4月1日から5年間という形にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは総合教育会議ですので、塚原村長にもおいでいただいているところであります委員の皆様方の方から何かご発言、ご要望あるいはお聞きしたいこと等ありましたら、お出しただければと思います。せっかくの機会であります。指名をさせていただいて、一言ずつよろしいですか。

4. 意見交換

○臼井校長

大きな部分での方向性は示されたのであとは、具体的にどういうふうに動いていただくかだと思います。細かなところですけどもこの前、28日に聖山に職員研修に行ってきました。久しぶりに登って、とても歩道は整備されていました。しかし、頂上付近にトイレや屋根のある施設があるといいと思います。登りやすい環境というところについて、一步踏み込んでいただければありがたいなと思います。大岡の境目なので、難しいところもあると思いますが、そういうところでもできることをしていただければと思いました。あと二つ目は、やはり子供支援のところでもカウンセラーとか本校にもLDの教室があって担当がいますが、村として公認心理士、学校心理士そのような専門家がいらっしやると、子供が頑張っ生活できるようなところのサポートになるのかなと思います。以上です。

○伊藤校長

4月からこの村にお世話になっています。まだまだわからないことが多いのですが、これから勉強していきたいと思います。今日の村長さんのお話の中で、環境整備の話がありました。その中でGIGAスクール整備の話がありましたが、ICTの活用特に職員のスケジュール管理が進んでいるなと思っております。ただハード面の整備がもう少しかなと思われまます。実際にスケジュール管理をネット上で行い、紙の印刷は減っているんですが、まだ先生方個人の端末を使っているところもあります。セキュリティの問題もありますので、一人一台のタブレットがあると良いと思っております。職員や、それから1人1人の子供たちに対する支援というと、たくさん支援員の方がいて、とてもありがたいです。今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

○塚原園長

入園の低年齢化と言いますか働く環境の中で、産休がお母さん方1年しかとれないという状況の中で1歳から入園するお子さんが増えています。それに対して、今年度スタートしております。コロナではなく風邪による欠席が多く見られます。熱があるとか、症状の重いときには休んでもらっているのですが、咳が止まらなかったり鼻症状がなかなか改善されなかったりした場合1週間もしくは長いときは10日間特に小さいお子さんは免疫がないのでお休みしています。その中で同居しているご家庭はあまりなく、おじいちゃんお

ばあちゃんが若いので仕事をされているところから保育園ではお預かりできないんです。いろんな条件があると思いますが病児保育という環境を整備していただければと思います。お母さん方も仕事を休むことに関して職場と園との間で悩まれているのかと思います。私達も預かりたいのですが、どうしても集団生活の場なので預かるのも限度があります。そんなところの整備を行っていただければ働きやすく仕事もし、子供を安心して預けられる事でとても良い子育て支援になるのかなと思います。

○高野委員

現場への看護師さんの配置はとても大事だと思います。精神的にも病後の関係にしてもこれから必要になってくると思います。教育コーディネーターとかいるとは思いますが、もう少し踏み込んで、できれば保育園小学校中学校それぞれに踏み込んで入って行けるような方、教師の方、保育士の方が1人でやりくりするのではなく、コーディネーターがいるから対応ができるっていう事があるとお思います。例えば学校を休みがちな子に定期的に連絡するとか、そういった立場の方がいてくださると良いかなと思います。

○小松委員

子を大事にすると言いつつ、どういう手立てがどういうふうに整っているのかと言うのが今ひとつ分かりづらいと思います。現状に即して状態を見直して、例えばどういうことに困っている人がいて、どういう手立てを持って支援が出来るかを表にしてはっきり見えるようにしてほしいです。その辺をすっきりとわかりやすくきちんと個に手が届くようなきめ細かい仕組みが出来てくると良いかなと思います。世の中が動き始めて子供たちも色々経験できるようになってくると思います。特に麻績は自然豊かな環境です。地元の自然だったり人との触れ合いだったりいろいろな行事だったり諸々の体験をさせてから社会に送り出してあげたいというところも今後期待したいところでもあります。おみっこ元気くらぶとか放課後子ども教室とか、以前のボリュームでやろうとすると現状では職員の手が足りないかと思われます。もし足りないのであればそこをサポートして行けるような仕組み作りがあるとよいと思います。

○宮下委員

小学校ですが、ICT教育というところで学びの形が年々変化している事に気づかされます。子供たちの様子を見ていると新学期が始まってからかなり定着してきている様子で活用が進んでいます。学力向上に向けて環境整備とかしてくださった中で子供たちのやる気に繋がり自信をつけていくようにも感じています。連休明けには、学校みどりの日と言うことで聖高原まで子供たちが実際に歩くことになっているようです。体力向上と言うところがかなり弱いので地域学習と結びついて大事な経験になるかと思われます。4月に保護者総会で話を聞く機会がありました。PTA自体もやはり思いはそれぞれあって、変化していくタイミングでもあるということを感じました。なので、検討しながら進めていくのかなと思います。

○小山職務代理

村で子育て支援住宅ということで、だいぶ整備していただいたりして子供の数も学年に

よっては拡大しています。ただいろいろ環境の中で、小中学校生徒がかつてのように二クラスというような形になるのは当面無理だと思います。そういう中でコロナもあって、いろいろ地域との交流というのも制限がありましたが、コロナも落ち着いてきている中で、他地域や他県等の姉妹都市的な交流などそういう形のものができるらいいと思います。先程来言っておられましたように ICT 活用の中で交流をして、井の中の蛙大海を知らないではなくて、大海も少しは知りながら高校へ向かって行ってほしいと思います。16 歳 15 歳で高校生になるわけですが、そのときの高 1 ギャップというのも少しでも解消するためにも、小中学校のときから全然違う地域との交流ということも必要ではないかと思います。

○加瀬教育長

はい、ありがとうございました。いくつか課題を出していただきました。実は先日小学校の PTA 会長から私にご依頼いただいて、何らかの機会に PTA で今後の方向だとか、教育委員会が進めていこうとしていることなど話してもらえないかということでした。お受けいたしました。それでは塚原村長から何かまとめてお話いただければと思います。

○塚原村長

聖山の整備でございますが、実際には地元の子供たちが登らないという山です。ようやく今は登り始めてますが、どこが登っているかということ長野市の小学校は約 1000 人以上登っております。山道整備については、整備をさせていただいているところでございます。頂上へ登ったときに麻績を見たときに雑木が大きくなって下が見えない状況にあります。かといって麻績側の地形が急勾配になっているので危険対策をしながら観光課と検討しております。あそこは長野市と麻績と重なっていますので麻績側だけ切って対応しようかとなっております。トイレ等については頂上から少し下った先の聖峠にバイオトイレを設置しようかと計画をしておりましたが、いろいろな問題点が出ました。誰が管理をするのかという問題から中断しております。バイオと言うことから水を使いながら、その水を回転させて浄化をする仕組みとなっております。菌を入れても使用量が少ないと菌が死んでしまって活用できないという問題があります。ではどうしようかと言うことで汲み取り式も考えました。しかし、あそこまでバキュームカーが行くのは難しい事もありまして、いま研究中であります。いずれにしても県立公園になっていますので、阿部知事さんも県立公園の整備と言うことで協議会等も出来ています。施設に対する県の補助もいろいろありますので今後はそういったものも活用しながら整備して行けたらと思っております。

心理士あるいは専門的な先生等の配置については、なかなか単独では大変難しい部分があります。北部もしくは筑北村との共同といった形の中でそういったものの活用がなされればと思っております。一人の方を雇うとなるとなかなか大変なことになります。学校の子供の対応においても看護師の方にもお願いするような事も引き受けしております。今までは資格をお持ちの地域の皆様のご協力によってお願いしていましたが、難しい状況となってまいりまして派遣できるところへ委託という形になっております。年間何百万という

かたちで委託して来ていただく方法をとっております。今後研究検討をしてきます。

ICT教育については、1人に1台は進んできております。ハード面がまだ弱いです。今年度職員のパソコン6台分を予算化しました。徐々に整備を進めて行きます。先進国の中で日本は大変遅れているという状況で必死に取り組んでいるという部分ではありますが、やはり本当に100%いいのかどうかという部分については懸念されるころもあろうかと思えます。皆さんにご意見を聞くと、子供たちがスマホ、タブレット、パソコン、ゲームそれしか目を向いていないという状況の中で、教育の中においてタブレットを使わなければ学校教育ができないという場合において、子供たちはそういった物に依存してしまうことが、一番心配されるのではないかと私は思っています。そういった子供の心の部分が機械化されてしまわないか心配するところです。そういったものについては、しっかりと先生方の取り組みの中で進めていただければと思っております。また将来に向かって、親と子の関係というのは本当に順調にいくのか。子は親を慕い、親を敬うという気持ちが植えていって行くのか。機械パソコンとゲームの中では、強いて言えば戦って相手を殺したり、やっつけたりということが、平然と行われています。それが大きくなったときに、それは当たり前のことになり犯罪が起きるといような、そういった部分が言われてるところでございます。先生方の個人の物をつかっているという部分については、今後少しでも改善して進めていきたいと思っております。

また保育園の件ですが、咳と同じ病状に対する対応が必要だなというようなことがあります。本当は地域の皆さん方の中でいろいろとボランティア的な部分で対応ができればいいのですが、なかなかできないということです。保護者の皆さんの中からお意見をいただきながら今後においてはより良い方向で検討も必要かなと思います。学校保育園とも、咳一つしたら帰ってください。熱がなくても帰ってください。親からすれば、「熱もないのに咳したら帰れって言われて迎えに来いって言われたよって」いような声をいくつか私の方へも苦情という形で来ています。それは他の子への全体の感染予防で最善を尽くしているんだということは、ご理解をいただいています、そこら辺のところを解消するためにも、今後は検討しなければならないと思う部分でございます。

それから施設の看護師さんの必要性というようなことでございますけれども、今やはり高齢者施設において看護師さんの需要がものすごく高いということで、なかなか募集しても来てもらえないというのが事実でございます。いろいろ高齢者施設などにおいては、もう70、80ぐらいになっても、看護師さんとしてパートとしてお願いせざるをえないような状況です。それと同時に教育コーディネーターというようなことで職員の中でのコーディネーターというようなことで実施をさせていただいておりますので、そこら辺のところにつきましては、しっかりとコーディネーターとしての役割とは何をすべきかはっきり

させながら、皆様方とともに学校等と繋がりを持ちながら進めてまいりたいと思っていますところでございます。いずれにしましても、子育てする中において悩み事もあろうかと思えます。教育相談という形でしっかり受けていかなければならないと思えます。

今社会的には、育児の悩みが虐待に繋がっていくようなことも出てございますので、そういう部分につきましても、しっかりした対応を図っていただかなければならないと思っていますところでございます。子育てに対する対応については、国のもこれから日本の人口の将来像という50年後には約8700万人そして今2040年問題がございまして、2040年には1億1000万ぐらいになるという試算が出されています。1億2450万が日本の人口ですけども、それが1億1000万ぐらいになるということで、2040年には、100万人の労働者不足になると言われています。そうなってくると、様々な分野で、もう何事もできない状況と聞いています。強いて言えば宅配とか運送業ドライバーが不足し、25%、4分の1はもう配達出来なくなるそうです。また建設業においても、やはり労働者がいなくなると、やはり22%ぐらいの道路が穴だらけで修理が出来ない状態になるようです。また介護においても同様に、今まで週に五日来てもらっていたのが、週一日か二日しか来てもらえない状況になるそうです。また中小企業においては、労働力不足で廃業をせざるを得ないというようなことも起こりかねない。それから大規模な会社においても高齢者がもう残業から何からして働かなければならない。しいて言えば、「死ぬまで働けよ」というそんな時代が来るってというようなことも言われております。その中で、やはりこれから国は子育て支援、教育環境というものに重点を置いて、岸田内閣においてはいろんな支援をしているわけでございます。しかし、金をくれるから少子高齢化が解消できるのか。これはなかなか難しい部分です。やはりその時々の方々がどう考えるかということが、一番重要じゃないかと思っていますところでございます。そして周りからどうのこうのいろいろな強い言葉とか、子供の出生率を高めるかというような話の中で言葉の中に行き違いがあって、いろいろそういう言葉に対してまた批判を受けるということもございまして、なかなか難しい分野だなど思う部分でございまして。将来の自分たちが10年後20年後を考えたときにどうなるのかということそれぞれが自覚して行かないと難しいんじゃないかなと思うところでございます。

社会教育の部分ですが、地域の良さを生かした取り組みでございしますが、自然豊かな中で、しっかりとした子たちを育てるという意味においては、おみっこ元気くらぶ等の充実を図ってきたということでございます。これについてもボランティアの募集ということで、いろいろとしてるわけでございます。また有り余る職員の数がございませぬので、どうしても無理の出る部分もあるわけでございますが、そういった中でも、しっかりとした取り組みをしていきたいと思っております。そして常日頃から皆様方から「自然豊かな」という部分が言葉に出るのですが、じゃあ「自然豊かな」というのはどういうものが自然

豊かかって言う部分が、一番じゃないかと思っています。というのは、やはり農業振興と
いうような形で言われておりますし、稲作については、大変厳しい状況になってきており
ます。水稻栽培というのは本当に皆さんやられている方は分かっていると思いますけれど
も、高い機械を買ってそれでお米を作る。要するに昔の人間だったら祖先の土地を守らな
きゃいけない。またまわりに迷惑かけちゃいけないから荒しちゃいけないという気持ちの
中で一所懸命作っているわけでございますけれども、実際的には米作りというのは今本当
に機械とかいろいろ考えると、買った方が安いんじゃないかっていう方向へも動く人がい
っぱいいいて、それからプラスアルファ高齢化によって離農する方が多くなってきている
というようなことが必然でございます。離農した方が作らなくなり、遊休荒廃地がどんど
ん増えてくる。田んぼには葦が増えてくるという状況の中で自然豊かな村じゃなくなりつ
つある。だから、やはり子供たちにも「自然豊かな」というのは、それを支えている人た
ちがあって、自分は守られているんだよと伝えていかなければならいと思います。山につ
いても今なかなか手が着けられないということで、松食い虫にやられてしまっています。
これだけのものになっちゃうとどうにもならないってというような部分でございます。やは
り自然を体験しながら、またそういう陰にはこういうしっかりと自然を守っている人もい
るんだよというようなこともしっかり共有しながら、また自然豊かな中で子供たちの育成
が出来ればと思っているところでございます。こういった部分についてはボランティアの
皆様方が一緒になって、子供たちと対応していただければいいんじゃないかなと思ってい
るところでございます。親も大変忙しいと思いますが機会があれば子供と一緒に、外に出
て遊んでいただきたい。小川でドジョウを捕るというようなことも、なかなかできない状
況でございますけれども、そういった素朴な地域の環境を利用する中で対応できれば、子
供たちも向上につながるのではないかなと思うところでございます。

子供たちの体力が無くなったというような部分でございますけれども、GO!GO!歩こう
の日は学校側も一所懸命取り組んでいるわけでございますけれども、本来でしたら毎日歩
くのが普通で、子供だったら通学するのに歩いて行くのが当たり前だろうと私どもの考え
の中では思っているところでございます。なかなか体力の部分については、難しい部分も
あるわけでございますけれども、こういったものについては学校の基礎体力の中でも充実
を図っていただくといいのではないかなと思います。昔であれば学校の春秋の遠足とい
うようなこともございましたけれど、機会を捉えて歩きながら登山をすとか、ちょっと筑
北三山へ行ってみるとか、そんな形で対応していただきたいと思っています。

PTAの活動等もコロナによって変化が出てきている部分もでございますけれども、PTAの
活動についてはいろいろな社会の中で、PTA活動自体を休止にしてしまうというよう
なお話を聞いておりますけれども、それは如何なものかと思うところでございます。学校
教育は子供たちと親が一緒になって社会のコミュニティを巻き込む中で子供たちの育
成に努め

ていき、学校を見守っていく気持ちは大切じゃないかと思います。学校の教育とそれから教育の方針等については、教育委員会の中で、委員の皆さん方とまた保護者の皆さん方でしっかりとコミュニケーションをとれればと思っているところでございます。

他校との地域の交流ですが、私もぜひとも姉妹学校ではないですけども考えてございます。できれば筑北中学校あるいは麻績小学校でもちょっとやってみたいとか、強いて言えば福井県の何とか学校とやってみたいとかそんなのがあれば、自立性ということもございますし、ある意味違った環境の中の皆さん方と交流するということは、いろんな面で吸収するべきものもあるのではないかと思います。そういったものについては、検討していただければと思うところでございます。

いずれにしましても麻績村の将来を支える子供たちでございます。「心豊かで明るくのびのびと」については、だいたい育っていると思われれます。その後が続く、精神力の部分が強いかどうかという部分については不安が残ります。社会に出たとき先ほども出ておりますけれども、一貫教育の中で保小中まで行くんだけど高校となったときに、井の中の蛙じゃないのですが、こんな小さな村から、大海に出て行ったときに、やはり他の地域の人々と交わったときに、精神的に心砕けてしまうようなことにならないように、しっかりと育っていただければと思います。それで社会に出たときに、やはり自分の目指す目標に向かって、階段を一步でも二歩でも登っていくような、子供たちの育成をしていただければと思うところでございます。皆さん方からご意見いただいたものを、100%おっしゃる通りできないわけでございますけれども、しかしながら一步でも二歩でも、保護者の皆さん方あるいは学校教育を支えている皆さん方のご意見が、もう一步でも前進できるような形で、進めていきたいと思っております。子育て環境というのが一番の柱でございますので、前向きに進めて参りたいと思っております。今後においても、皆様方のご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

○加瀬教育長

塚原村長より具体的なお話をいただきました。我々も取り組んで行かなければならないことがあるなと思ったところであります。今後でありますけれども、実際に合同の職員会議等が来週予定されております。そののところに、教育委員の皆様にも見ていただいて、施設を見たり、先生方の状況を見たりということを計画しています。昨年度コロナで断念をした施設見学ですが、今年度は積極的に動きたいと思っております。先ほど塚原村長さんからもありましたけれども、特色ある取り組みをしている学校等を視察に行ったり、あるいは義務教育学校などを見たりしながらやっていきたいと思っております。交流事業に関しましてもできる限り今年は動いていかねばなとと考えております。そんな方向でまた塚原村長のご要望にもこちらも答えられるように頑張りたいと思っております。本当にありがとうございます。

ました。

5. その他

○加瀬教育長

その他、皆様の方から何かございますか。ありがとうございました。

6. 閉会

○加瀬教育長

それでは以上をもちまして、令和5年度第1回の麻績村総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(会議閉会 午前10時40分)